

 <p>日野中だより 10号 発行：令和3年9月14日(火) 文責：佐世保市立日野中学校 校長 池田 美祐紀</p>	<p>校訓 学校教育目標</p> <p><b>愛</b> 心豊かで活力に満ちた生徒の育成</p> <p>学びあい 認めあい 支えあい</p>
---	--

## 令和3年度全国学力・学習状況調査結果等について

令和3年5月27日(木)に実施されました調査の結果等についてお知らせします。

### 全国学力・学習状況調査ってどんな調査？



#### 調査の目的 (文部科学省)

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 調査の対象学年

小学校第6学年、 中学校第3学年 (本校は3年生103名が受検しました。)

#### 調査教科

国語、数学、(6年算数) \*平成24年度から理科を追加。理科は3年に1度程度の実施

#### 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

○児童生徒に対する調査 ○学校に対する調査

※長崎県では、「問題を正しく読み取り、複数の情報から必要な情報を選択したり関連付けたりすること、また、それらを基に自分の考えをまとめ表現することに課題がある。」という結果が出ています。



### 日野中学校の結果は？

## 令和3年度 全国学力調査 (国・数) 県学力調査 (英) 結果分析

	成果	課題	改善策
国語	○話し合いの中で質問の意図を捉える、話し合いの話題や方向を捉えて話す内容を考えると「話すこと・聞くこと」は平均を上回っており、話し合いの目的や役割を意識して活動に取り組めたことがうかがえる。	○昨年度に比べ、「書くこと」が大きく平均を下回った。自分の考えをもつことはできていても、それを文章として表現する際の、語句や文の使い方や段落相互の関係を注意しながら分を整えることを苦手とする生徒が多いと考えら	○「書くこと」においては、誰に向けて書くのか、相手に伝わるためにはどのような書くべきかという相手意識・目的意識を明確にした活動に取り組ませる。また、自分の書いた文章を客観的に読み、文章を整える時間を設ける。

国語	○「読むこと」領域に改善が見られ、特に「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」では、昨年度は平均を下回っていたが、今年度は平均を上回った。	れる。 ○事象や行為などを表す多様な語句についての理解が、昨年度より平均を下回り、語彙力に課題が見られる。	○新出語句以外でも、授業の中で辞書を引く場面を設け、言葉にこだわる姿勢を育む。
数学	○すべての領域において、昨年度の県学力検査から改善が見られた。特に関数分野では全国平均を上回り、関数の意味を理解している生徒が増加している。 ○数量や図形などについての知識の定着が図られつつあり、「ていねいに書くこと」の実践が実を結んでいると考えられる。	○数学的な技能については、まだまだ定着が図られていないところがある。 ○「資料の活用」の領域では、「中央値」や「度数」など、基本的な用語の意味や計算方法などが定着していない。 ○記述式の正答率が低く、既習内容を用いて自分の考えを説明することを苦手とする生徒が多いと考えられる。	○自分の考えを表現する時間を確保する。授業の中で周囲に対して説明する時間を設け、「書く」前に「言葉に出す」ことからはじめ、徐々に自分の考えを「書く」ことができるようにする。 ○「資料の活用」の領域に関する基本的な知識やその用途について復習ができる課題に取り組みさせる。
英語	○英語を聞いて正しい選択肢を選ぶことについては、ほぼ県平均に達しており、聞いて理解し判断する力がついてきていると思われる。 ○英文を読んで適切な語を選択すること、ポスターや会話文、長文を読んで内容を読み取る力も、ほぼ県平均に達している。	○与えられた情報からそれを説明する英文を書く、会話の流れを読んで適切な疑問文を書く力が不十分である。 ○与えられた課題に対し、自分の意見とその理由を20語以上の英文で書く問題は、取り組もうとする意欲は見られるが、20語以上書くことのできる生徒が非常に少なかった。	○書くことについて、日常の授業で自分の意見を英文にしたり、理由をつけて表現したりする機会を増やす。 ○自分の意見を述べるためには、意味を理解して書くことのできる基礎的な単語を増やす必要がある。家庭学習の中で単語を書いて覚える時間を確保するようにする。

### 質問紙調査結果について

質問紙調査結果から、生活習慣や学校環境に関する結果が学力面に影響を及ぼしている側面が見取れるので、質問紙の結果も参考にし、子どもたちの生活習慣や学校環境についても同様に改善していかなければならない。例えば、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。」については、当てはまる、どちらかと言えば当てはまると回答した本校生徒の割合は、全国、県平均を下回っている。また、「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム等をしますか。」の問いについて、「3時間までしている」と回答した生徒の割合は、県を1ポイント上回り、全国を11.7ポイント上回っている。学力向上のためには、日々の生活改善が必要な面も大きい。今後、更に、ご家庭の協力を得ながら、授業改善、学力向上に取り組んでいく必要があると考えている。（続きは、更に今後の学校だよりやHP等でお知らせします。）